

## 23. 野生鳥獣の保護管理手法等の開発

### (1) イノシシの生息に係わる植物の繁茂状況

遠竹行俊・新井一司

#### 〔目的〕

近年の急激なイノシシ被害の報告は、捕獲報告の急激な増加によって裏付けられているが、イノシシが増加した原因については、不明の点が多いので、原因の一つと思われる緑地の状態について予備的分析を試みる。

#### 〔方法〕

昨年の生息拡大地域において調査したメッシュ204の中で生息の痕跡があったメッシュは50であり、痕跡のあったメッシュは総て緑地であった。しかし、緑地であっても生息の痕跡が無いメッシュもあり、生息条件を知る手がかりの一つとして、緑地の解析が必要と思われた。緑地解析の一例として、昨年の1kmメッシュ単位の生息状況を基に、生息が確認出来たメッシュと非生息メッシュ内の植物の繁茂状況を見通しの度合に置き換えて、水の透明度で測定する要領に準じて、1m×1mの白い方形の板を使って測定した。この板が識別確認できる限界を、5mまで、10mまで、20mまで、50mまで、100mまでの区分に分け、メッシュ内の代表的な場所において、幅20m、距離約600mの線状に踏査し、それぞれの区分の植物の繁茂状況の出現比率を求めた。調査対象の生息確認メッシュと非生息メッシュは、隣接または近接している類似の地形や植生の分布状況の中から選び出した。

#### 〔結果〕

生息確認が無い地域とある地域それぞれの5メッシュを測定した結果が表-1である。この数値をそれぞれの区分別にt検定した結果、最も植物の繁茂の強い5mまでしか見通せない場所の区分に有意な差があった。5mまでしか見通せない場所の区分、一般的に藪と呼ばれる植物の繁茂状況は、イノシシの生息条件を左右していることが推察された。

イノシシは、カヤ、ササ等の繁茂する見通しの悪い場所を休息や出産場所に良く利用している。西日本地域におけるイノシシの増加の第一原因は、休耕田(40%の水田耕作中止)やミカン樹園地の生産調整等による土地の放置、過疎や高齢化による土地管理の欠如等が指摘されている。これらの土地管理の放置や欠如によって植物が密生して繁茂した状態は、イノシシにとって安心して行動できる植物の物理的空間が豊富になり、また、植物の旺盛な繁茂状況は、澱粉質の食物や小動物の繁殖を助長して、雑食性イノシシの栄養条件が豊富になったことを推察できる。東京都の西部では、この数年林野の放置状態が著しい。大面積の法人所有地や個人所有の林野が、雪害、木材価格低落、農用林利用の低下などによって放置されている。

予備的な試みの結果、見通しの悪い藪が多いことが生息条件の一つになっている可能性がある。しかし高等動物の生息条件としては、駆除、狩猟、犬、耕作形態など、イノシシに対するヒトの直接、間接に係わるの多くの要因が考えられ今後の課題である。

表-1 イノシシの生息地域と非生息地域の緑地の繁茂状況の比較

藪の見通し	5m以下		10m以下		20m以下		50m以下		100m以下	
	生息なし	生息あり	生息なし	生息あり	生息なし	生息あり	生息なし	生息あり	生息なし	生息あり
標本の大きさ	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
藪の平均面積	30.98	60.07	29.45	20.46	13.63	12.39	17.61	5.65	8.51	1.41
不偏標準偏差	21.06	14.43	7.07	11.75	2.94	6.76	17.47	2.07	14.1	1.35
有意性の有無	有(4%)		無		無		無		無	

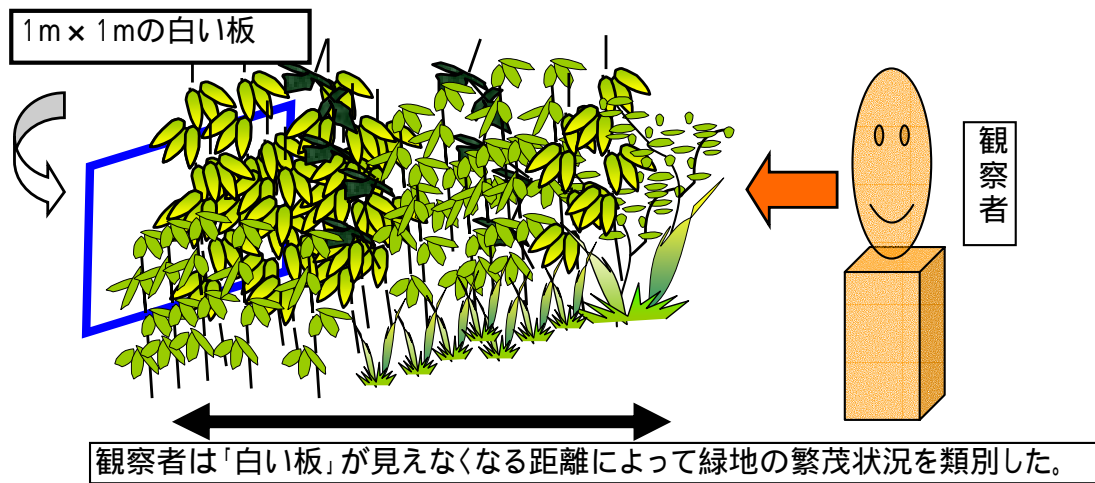


図-1 緑地の繁茂状況の測定状況